



【消化器がんの手術と食事の関係】

手術前に、食欲不振や食事量の低下、生活習慣病の影響などにより、栄養状態の低下があると、手術後の合併症（感染症を起こしやすい、傷の治りが遅くなるなど）の起こる頻度が高くなるということが明らかになっています。手術を控えている方は、ご自分の食事状況を見直してみてください。食欲不振や食事がとおりづらといった症状（通過障害や嚥下障害）があり、食事量が減っている場合には、早めに主治医や管理栄養士へご相談下さい。

【栄養状態を良くする食事とは】

栄養状態は、“栄養のバランスよい食事”の継続で良くなります。「量」と「質＝バランス」に配慮して食べることが大切です。最近特定の食品を多くとったり、極端に減らしたりすることが良いとされる風潮が見られますが、偏った食事内容は身体に必要な栄養素が不足し、結果として栄養状態の低下を招く危険性があります。以下のポイントをご参考に、今日から栄養バランスを整えていきましょう。

ポイント1 主食・主菜・副菜を揃えて食べるようにしましょう

主食（ご飯、パン、麺類）、主菜（肉、魚、卵、大豆製品、乳製品）、副菜（野菜、きのこ、海藻、果物）を揃えると、体に必要な栄養素がまんべんなくとれます。



ポイント2 同じ食品や同じ料理に偏らないようにして食べましょう

食品はそれぞれに含まれる栄養素が異なります。色々な食品と料理をとりいれると、栄養素の過不足が調整できます。

ポイント3 不足しがちな食品をこまめにとるようにしましょう

野菜、果物、乳製品の他に、海藻、きのこ類、豆類、種実類が不足しがちです。常備菜や冷凍食品、乾物など利用して手軽にとれるようにしましょう。



開催のご報告

大森日赤フェスタ 2013 ～あなたに届け！LOVE & SMILE～

去る5月25日（土）当院で大森日赤フェスタを開催いたしました。当日はお天気に恵まれ、地元の方々をはじめ900人程度の来場者にお越しいただきました。イベントは、大田区大森第三中学校や大森みのり幼稚園、近隣のお店の方々にご参加頂き、会場の雰囲気をお賑やかに盛り上げてくれました。



皆様からお預かりした義援金・活動資金

項目	金額	備考
東日本大震災義援金	208,856円	バザー・緑日の売上及びチャリティーBOX
赤十字活動資金	19,943円	チャリティーBOX

○アクセス

京浜東北線「大森駅」(約8分) 西口より東急バス①②③④番に停車するバスにて「大田文化の森」下車
東急池上線「池上駅」(約10分) 東急バス「大森駅」行きにて「入新井第四小学校」下車
東急大井町線「荏原町駅」(約10分) 東急バス「蒲田駅」「大森駅」行きにて「大森日赤前」下車

【車でお越しの方】

立体駐車場 (107台)、車椅子用駐車場 (2台)
【料金】0時～24時 30分200円 入庫後24時間 最大1,000円
※当日受診した方は、最初30分無料 以降30分100円(診察券が必要です)



大森赤十字病院

〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-1 TEL03-3775-3111 fax03-3776-0004

日本赤十字社

大森日赤だより

Contents

□特集 『消化器がんの手術に万全な体制を取っています』

外科 第1外科部長 佐々木 慎 第2外科部長 渡辺 俊之
第1外科副部長 中山 洋

□特集 『多発性骨髄腫をご存知ですか?』

血液内科 副部長 久武 純一

□食事から学ぶ病気のこと 『消化器がんの手術前の食事について』

□トピック情報 etc.



外科スタッフメンバー

消化器がんの手術に

万全な体制を取っています

右：第2外科部長 渡辺 俊之
 中央：第1外科部長 佐々木 慎
 左：第1外科副部長 中山 洋

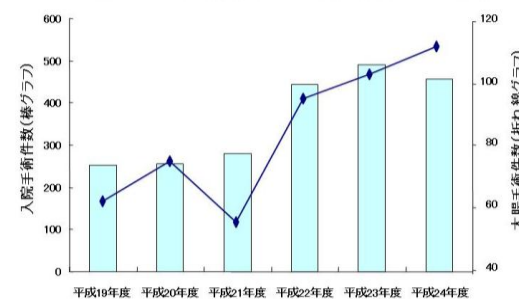


大森赤十字病院外科に安心して任せられる病気

1. 胃がん・大腸がんなどの“消化器のがんの手術”
2. 急にお腹が痛くなって救急車を呼ぶような病気
 (例えば急性虫垂炎や胃・腸に穴が開いた、腸捻転を起こしたなど)
 一まずは当院の消化器内科が診察しますが手術が必要な場合はすぐに外科で治療
3. 胆石やヘルニア (いわゆる脱腸)、痔などの良性の病気

なかでも“消化器のがんの手術”は特に力を入れて診療にあたっており、大腸がんの手術は年々増加しています(図1)。安全で専門性の高い大腸がん手術治療、適切な化学療法の提供、最良の緩和医療の実践、手術・化学療法・緩和の全てを視野に入れた治療方針の決定など、当院の大腸がん診療体制を評価され、今年度、「東京都大腸がん診療連携協力病院」に認定されました。

図1. 外科の入院手術件数と大腸手術件数の推移



—外科の中でのご専門あるいは最も得意とすることは何ですか？

佐々木第1外科部長「特に大腸・肛門領域の手術を専門にしています。大腸内視鏡検査も得意です。また、大腸がんの抗癌剤治療についても多くの経験を積んでおります。そして、院内の緩和ケアチームとして緩和ケアの活動も熱心に取り組んでおります。」

渡辺第2外科部長「私は医者5年目から当院で一般・消化器外科医として勤務してきました。一通りの手術は幅広く経験しており特に専門領域はありませんが、栄養治療と膵臓がん、下部胆管がんの手術を比較的得意としています。」

中山第1外科副部長「胃癌・乳癌を中心に広い分野を手掛けています。胃癌ではより小さなキズで行う小切開手術を行ったり、高度進行例に対しても、手術と抗癌剤の使用で、治療成績を上げることを目指しています。乳癌の温存手術では、よりきれいな形で乳房を残すように努めています。地域柄、ご高齢の方も多いため、患者さんとよく相談して治療方針を決めるように心がけています。」

Q：治療方法は？

A：完治させるのは難しい病気なので、主に症状をコントロールする治療を行います。治療には「骨髄腫細胞の数を減らすための治療」と「症状を抑えるための治療」があります。

「骨髄腫細胞の数を減らすための治療」には抗がん剤を使った化学療法や、年齢や体調などの条件が合えば造血幹細胞移植を行なうことがあります。「症状を抑えるための治療」には、骨病変の進行を抑えるビスホスホネート療法、放射線療法や、痛みに対する鎮痛剤投与があります。最近の治療として、プロテアソームという酵素の働きを抑える「ボルテゾミブ」という薬や、血管新生を抑える「サリドマイド」「レナリドミド」という薬での治療が効果を上げています。当院でもこれらの新しい治療薬での治療を行っています。また、高齢の方が多い病気ですのであまり強い治療はかえって体調を崩すこともあり、外来通院でマイルドな飲み薬で症状を抑える治療も行っています。



血管新生抑制薬の「レナリドミド (レプラミド®)」



ビスホスホネート製剤の「ゾレドロン酸 (ゾメタ®)」

外来日程表

	月	火	水	木	金
午前	有泉 石原	前田	久武	久武	
午後		石原			久武

平成25年7月1日現在
 ※診察日等が変更となる場合がありますので事前にお問い合わせ下さい。

—大森赤十字病院外科の特長をお聞かせ下さい。

佐々木「大学病院などと異なり、手術を得意とする固定のメンバーで安定した手技で手術を行うことができることです。これにより手術の合併症は少なくなります。また、病院の大きさから他の部や科との連携を取りやすく、病院全体で患者さんを診ることできるというのが大きな特長だと思います。」

渡辺「消化器がんの診療は手術さえすればいいというものではありません。当科では術前診断、手術、化学療法から緩和ケアまで幅広く対応しています。術前からある高血圧や糖尿病の治療も大切ですし、術後も栄養障害や貧血、便秘異常、腸閉塞などが起こることもあります。地域に密着した病院ならではの一貫した診療が可能です。」

中山「手前味噌かもしれませんが、人柄のいい医師がそろっているように思います。安心していろいろなことを相談できるのではないのでしょうか。」

—この点は他に負けないというようなところがありますか？

佐々木「患者さんにとってどのような手術の方法がベストか、あるいは手術以外にどのような治療がベストかを皆で検討し、実践していくことです。」

渡辺「土日、祝日も必ず複数の医師で回診を行っており、スタッフ全員で患者さんの状態を把握するように努めています。」

中山「きちんと説明して、納得して治療を受けていただくことです。また、看護師・薬剤師などのスタッフとのチームワークも自慢できるところで、医師の目だけでは気づきにくいところまでカバーされるようになってきていると思います。」

—最後に区民のみなさんに一言お願いします。

佐々木「がんの治療に必要なものは技術+心（=信頼）です。安心して受診して下さい。」

渡辺「がんの治療は、いざという時にいつでもかかれる地元の病院で！」

中山「がんの治療は、その病院との10年単位の付き合いを意味します。通い易いことも大事ですよ！」

外来日程表

		月	火	水	木	金
午前		渡辺 三浦	中山 金子	佐々木 三浦 原田	渡辺	佐々木 金子 柿原
	乳腺外来	鈴木				鈴木
午後	ストーマ外来				担当医	
	乳腺外来（予約制）	鈴木		中山		鈴木

平成 25 年 7 月 1 日現在

※診察日等が変更となる場合がありますので事前にお問い合わせ下さい。

多発性骨髄腫を

ご存じですか？



血液内科 副部長 久武 純一

Q：多発性骨髄腫とはどんな病気でしょうか？

A:リンパ球のひとつ「形質細胞」が「がん」になった病気が「多発性骨髄腫」です。異物が体内に入るとリンパ球のひとつ「B細胞」が刺激を受けて「形質細胞」に分化します。形質細胞は「抗体」というタンパク質を作り、異物から身体を守る働きをします。多発性骨髄腫ではがん化した形質細胞（骨髄腫細胞）が役立たずの抗体「Mタンパク」を大量に作ったり、骨髄中で異常に増殖するようになります。高齢者に多く、毎年10万人に2~3人がかかると言われていています。

Q:どんな症状があるのでしょうか？

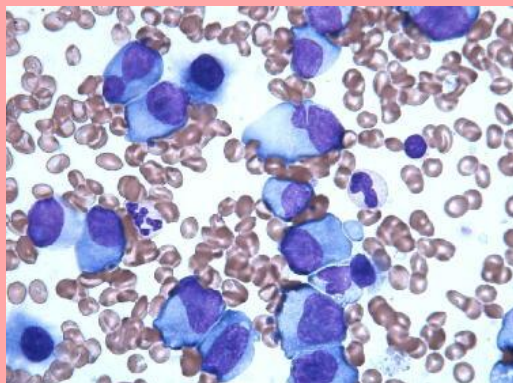
A:多発性骨髄腫の症状は主に以下の3つによるものです。

- 血球減少による症状
だるさ、息切れなどの貧血症状。出血しやすくなる。
- 骨破壊による症状
腰や背中への痛み。骨折。高カルシウム血症による口渇、意識障害。
- Mタンパクによる症状
むくみ、尿量減少などの腎障害。頭痛、目が見えにくくなるなどの過粘調症候群による症状。
ただし自覚症状はなく検査でわかることもあります。



Q:診断方法は？

A:多発性骨髄腫が疑われた場合、血液や尿でMタンパクがないかを調べます。Mタンパクがあった場合は骨髄検査を行ない骨髄腫細胞がないかを調べます。骨の異常がないか全身のレントゲン検査も必要です。



骨髄中の骨髄腫細胞



頭蓋骨の骨打ち抜き像